

式 辞

本日はご卒業おめでとうございます。また長い間、暖かく支えてくださったご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。皆さんはこの宮崎国際大学で多くの先生方、先輩、後輩、友人などと知り合い、また宮崎の地で、いろいろな方と出会い、切磋琢磨して社会人として出発するにふさわしい能力を身に付けたことと思います。

確かに楽しい思い出ばかりではなかったでしょう。苦勞したこと、困難にぶつかったことの方が多かったかもしれません。それらを乗り越え、たくましく成長されましたことを私達宮崎国際大学教職員一同は大変うれしく敬意を表する次第です。

ところで、本日ご卒業を迎えられた皆さんに、学長として、最後に一つお願いがございます。それは、これからは、自分自身を常に客観的に見つめられる賢い人間として、社会で活躍して頂きたい、ということです。いわゆるセルフモニタリング力あるいはメタ知能を発揮して頂きたいと思います。

自分を客観的に見つめるとは、どういうことでしょうか？

自分を客観的に見つめれば、相手への気配りができ、相手の意見を聞き、適度な距離感を保ち、自分の弱点を把握でき、自分に何ができて、何ができないかを知ることなどが可能となります。この可能な力が集結すれば、世界のいろいろな問題、例えば地球温暖化と災害、貧富の差、ジェンダー問題、紛争と難民問題、世界経済と流通問題、あるいは情報化社会、AI問題等の解決への道を導きだす力になるでしょう。

皆さんは本学での教育を得て、知識人となりました。この知識人は高い論理性と高い志を持ち、多様な国の文化を理解し合い、発展する社会を作る義務が課せられていると認識して頂きたいと思います。

最後になりますが、本学の建学の精神である「礼節と勤勞」はいつまでも心に刻んでいて欲しいと思います。礼節は他を重んじ、他を尊重し、おもてなし、ダイバーシティ、寛容、の精神など幅広い意味を含み、一方の勤勞は向上心や高い志を持ち、目標に向かって努力する、自分を鍛えることを意味します。社会人になってもこの建学の精神を持ち、社会で大いに活躍されることを祈念して、私からの式辞と致します。

本日は誠におめでとうございます。

令和6年9月11日

宮崎国際大学学長 村上 昇